
呪われし一族

ランチュウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

呪われし一族

【Nコード】

N6296H

【作者名】

ランチュウ

【あらすじ】

いまや第9天魔王として活躍しているダークラ。実は、ダークラはある一族に呪われて、魔王になったという悲しい真実があった。そして、その一族も20年後に滅びるといふ呪いを背負った。そして、その20年がたってしまい、ついに滅びの一途をたどることになる……。

第1話・正則の逆襲（前書き）

今後はシユールな展開になりそうですが、色んなキャラが現れたりして、ギャグ路線になったりして。

第1話・正則の逆襲

正則はある人物を尋ねた・・・。
その人物はダークラを呪った者の一族の長だった・・・。

リヴオードン

「福島殿、どうなされた？」

一族の名前はアナグラムで出来ており、長かったり、摩訶不思議な名前になっていたりする。

正則

「復讐したいんじゃないあ！！！！豊富ファミリーを崩壊してやりたいんじゃないあ！！！！」

リヴオードン

「なに？復讐とな？ならばドリルを使おう」

正則

「（心の声…復讐にドリル？呪い人形をドリルでぶち壊すのか？）」

リヴオードンは薄っぺらいノートを出した。

リヴオードン

「さあ、これを使いなさい」

正則

「（心の声…なんだ、ノートか……。もしかしてデスノートか！？）」

正則はドリルに戦国無双に出ている全武将の名前を書いた!!

リヴオードン

「1＋1は豊富秀吉・・・？」

馬鹿だろ、お前・・・」

その時、リヴオードンの妻・ヒスラニックが怒鳴り込んできた!!

ヒスラニック

「あなた!!! 客人の話を真面目に聞きなさいよ!？」

リヴオードン

「な、なんだよ・・・。こいつ、馬鹿だから勉強させてんだよ!？」

ヒスラニック

「その人は、憎い人がいるから逆襲してやりたいんだよ!

まったく・・・。私がいないと、まともに取引出来ないんだから」

リヴオードン

「・・・」

正則はこの会話を聞いて、豊富夫妻の喧嘩の様子を思い出した。しかし、すぐに我に帰った。

正則

「俺は・・・キャラ化するまで、帰れない。ならば、帰る場所なんかいらぬ。破壊してくれ」

リヴオードン

「そうか。よくわかった。そうだ。お前に会わせてやりたい奴がいるんだ。風魔、黒田――！――！こ――い！」

すると、風魔小太郎と黒田官兵衛が現れた！

小太郎

「戦国無双を破壊しつくしてやろう」

黒田

「我輩も、豊富にはちよつとした恨みが……。いや、何でもない」

こうして、正則の逆襲は始まった！！

と、同時に呪われし一族の滅びのカウントダウンも始まった！

第1話・正則の逆襲（後書き）

正則、戦国無双を破壊したら、二度とキャラ化出来ぬぞ？って、自分で書いちゃってるんだけどね・・・。これは正則の恨み節なので、個人的には恨んでいない。けど、この待遇はあまりにも・・・。

第2話・大謀反（前書き）

死に神が現れますが、あの人達のせいで、空気になります。

第2話・大謀反

正則はまず、徳川家康を倒すことにした。

正則

「家康を抹殺する」

小太郎

「奴は飼い馴らせば、いい犬になる」

リヴオードン

「いや、タヌキだろ？」

???

「タヌキ狩りなら、私に任せろ」

そこに現れたのは、大きなタヌキみたいな生物だった・・・。

リヴオードン

「奴は自称・死に神と十郎のトトロだ」

ミニトトロ

「僕のパパですう」(青)

プチトトロ

「パパでちゅ」(白)

トトロ

「あつ、この小さいのは子供です」

正則

「原作にはない設定が・・・！？
にしてもプチトロロはかわええの」

トロロ

「気をつけろ！！そいつは私より戦闘能力が高いのだ！！」

小太郎

「・・・早く家康を混沌に還せ」

トロロは行くことに。しかし、外は雨だ！

トロロ

「仕方ないな。・・・傘だと体が濡れて、重くなるから、OPのミ
ッチーみたいな格好で行こう」

トロロはシーツを羽織って、陣笠を被った。
その頃、家康は城で雷の距離を計っていた。

ピカッ

石川数正

「ひとつ、ふたつ、みつつ・・・」

ゴロゴロ・・・

石川

「また、一段と近くなりましたな」

家康

「うむ・・・」

石川

「家康殿の寿命も・・・」

家康

「なに！？・・・アッー！」

石川数正は家康を切り捨てた！！

石川

「わしもキャラ化したかった・・・。なぜ黒田殿は・・・（怒）」

その頃、上杉軍は・・・

直江

「なあ、3の私はセクシーだと思わないか？」

すると、景勝は無表情で・・・

景勝

「そ・れ・は・よかったな！！」

景勝は直江を押し飛ばして、春日城をでていってしまった！！

景勝

「うおおー！！！！今回もハズレかよー！！！！！！」

政宗の所も同じだった。

小十郎

「なんで、バサラではキャラ化してるのにー……私はキャラ化せん!？」

愛姫

「私もキャラ化したいのに……。えーん!! (ノ、) (涙)」

政宗

「だから、4まで待て……。どわー!!」

二人は政宗を押し飛ばしてどこかへ行ってしまった……。その頃、トトロは……

リヴォードン

「さっさと……行けよ!」

トトロ

「やっぱり陣笠じゃ、あの快感は得られない……。しかし、傘だけだと、尻尾が濡れて移動力が減ってしまう……」

トトロが悩んでいると、石川、景勝、小十郎、愛姫がやってきた。

正則

「なんだ、お前らは……?」

景勝

「正則殿の想い、わしらも心底同情できます。だから、わしらと一緒にキャラ化したやつらに痛い目みせてやりましょう」

石川

「って、黒田……。貴様、なぜここに」

黒田

「我輩と小太郎は見た目がキモいという理由で迫害され、いまここに留まっているのだ」

小十郎

「キャラ化しても、キモいと迫害されるなんて……。なんと理不尽なのだ」

愛姫

「モブ武将だけじゃないわ。姫もキャラ化したい人は沢山いるわ。一緒に同志を探して、戦おう。ね？」

正則

「うう……。みんな……。ありがとう（涙）」

リヴォードン

「何とも微笑ましい」

ミニトロ

「パパ……。活躍できなかったね」

トロ

「……」

こうして、正則に四人も仲間が増えた。リヴォードンの景気もよくなった。

自分の一族に魔の手が少しずつ、伸びているのも知らず……。

第2話・大謀反（後書き）

一族滅亡率・2%

第3話・ダークラ、来日（前書き）

今回はあの一家が登場！あの化け物を飼育する！？そこに現れたイケメンのホームレス！娘の彼氏に八つ当たりするダークラ！！福島正則はもう、どうでもいいような事態に！？

第3話・ダークラ、来日

正則達がキャラ化した奴らに謀反を行うため、自分達と同じ不満を抱いているモブを探しだしたところ、

ダークラ

「ここが・・・、日本か・・・」

ついに最も恐れた事が起きた！

ダークラ

「せっかくだから、音場のせがれに顔を見せるか・・・」

ダークラは娘の彼氏、音場未来に会いに行った！
そのころ、ごく一般の家庭で・・・。

波平

「おーい、母さーん」

フネ

「お帰りなさい、今度は全自動なに機ですか？」

波平

「生き物を買ってきた、ほーれー！」

波平は茶の間でその生き物を見せた。
その生き物は全身毛に覆われていた。その顔はおどましく、口に鋭い牙が生えていた！

サザエ

「クリッター？」

波平

「どうだ、（あまりの醜い顔に）驚いたろ！」

カツオ

「何を食べるの？」

ワカメ

「フアービーみたいな作り物じゃないわよね？」

タラオ

「いつか深淵喰いに進化するですかあ？」

波平

「まあまあ、待ちなさい」

波平はクリッターの飼い方の本を読み出した！
三時間後・・・

波平

「んー、なるほどお」

カツオ

「クリッターって何食べるの？」

波平

「あー、まだそこはまだ読んでいない」

波平はクリッターの飼い方の本の“食べ物与え方”のところを読み出した。

そんなことしているうちにマスオが帰ってきた！

マスオ

「お義父さん、駅前通りで白銀の王・イスレイが深淵喰いに食べられてましたよ」

波平

「そうかそうか。」

まあ、そんなことより、新しいペットを飼ったんだ。ほーれー！」

波平はクリッターをマスオに見せつけた！

マスオはその醜い生物を見て、おもわず

マスオ

「あゝあゝー！ー！！！」

と、叫んだ！

波平

「どうだ、驚いたろ」

すると、誰かが玄関を叩く音がした！

サザエ

「はーいーい」

玄関を開けると、そこには髪の長いホームレスが立っていた。

サザエ

「あら、どうしたんですか？」

ホームレス？

「チンピラに絡まれたので、ここでかくまってください・・・」

サザエはその男が可哀相になった。そしてイケメンだったので家に入れてしまった！

その男は茶の間の入った。すると、マスオは驚いた顔で、

マスオ

「あつ、君は白銀の王・イスレイ！」

すると、イスレイはいきなり逆ギレして波平のてっぺんの毛に切り掛かった！

波平

「あああー！ー！」

イスレイ

「どうしようもないクズ一家だ。

目障りだ。塵になれ」

すると、サザエが包丁でイスレイをぶっさした！

サザエ

「よくも騙したわね、泥棒！」

タラオ

「死ねDEATH　！！！！」

タラオはオメガ粒子砲でイースレイの腹をぶち破った！

イースレイ

「がはあ！」

すると波平がイースレイにクリッターを投げつけた！

波平

「ほーれー、沢山お食べ！」

クリッターはイースレイを食べはじめた！

イースレイ

「ぐああっ」

しかし、イースレイはクリッターを振りほどき、空いていた窓から逃げ出した！

サザエ

「まったく、とんだ強盗だったわね」

波平

「イースレイめ、わが家の晩飯をいつの間にか盗み食いしていきおった」

波平はイースレイに不満を抱きながら寝る時間を迎えた。

波平

「クリッターをオリハルコンのカゴに入れて・・・と」

波平はクリッターを外に出したまま寝た。

いっぽう、ダークラは、ダークネス・ダークラになって未来を驚かせた！

未来

「ま、マヤミに・・・に、に・・・似てる！？」

ダークネス・ダークラ

「素顔を知ったからには、生かしちゃおけねえ！！！」

未来

「え？」

ダークネス・ダークラ

「おいこら、俺の娘の家に来ては、いつも泊まって行やがって・・・。

夜中になにやってんだ！？」

ダークネス・ダークラは興味津々な様子で聞いてきた！

未来

「な、何もやってないよ・・・！」

ダークネス・ダークラ

「ふざけるなあああ！！！！よくも手塩にかけて育てた娘を・・・ドSにしやがったな！」

未来

「マヤミの気が強すぎるんですよ!」

ダークネス・ダークラ

「アイツの性格には、俺も手を焼いてるんだよ! とりあえず、死ね!」

ダークラが未来を殴り殺そうとした、その時!

ヤムチャ

「おやおや? これは奇遇だな」

すると、ダークネス・ダークラは手を滑らせたのか? ヤムチャの方に平手を・・・

ヤムチャ

「ああああ・・・」

そして、その手はヤムチャの顔面にヒットした!

ヤムチャ

「でええええ!!」

デデーン☆

すると、クリリンは・・・

クリリン

「ヤムチャさん、きつと嫌な予感がしてたんだ・・・」

ダークネス・ダークラ

「何しに來たんだ？」

ダークネス・ダークラは未來とマヤミの純愛を認めていたので、もともと殺す気はなかった！

ダークネス・ダークラ

「怒り・憎しみにいつまでも囚われていると思っていたのか？」

ダークネス・ダークラは呪われし一族の皆殺しをすっかり忘れている！

ダークネス・ダークラ

「テレビ見せろ」

ダークネス・ダークラはテレビをみた！

ニュースキャスター

「食い逃げ犯・イースレイはいまだに深淵喰いの手を逃れ、逃走中です」

ダークネス・ダークラがテレビを見ると、未來の父・ドエフスキーがやって來た！

ドエフスキー

「そろそろ、イースレイを仕留めねば」

ドエフスキーは戦の準備をしだした！

未來は驚いた！

未来

「なりません、父さん!!」

ドエフスキー

「これは、音場家最後の大博打。賭けるのもわしの命だけでいい」

未来

「だけど、それじゃあ・・・」

ドエフスキー

「未来、わしは小説家のもののふなのだ」

ドエフスキーは未来の心臓部を軽く叩いた。

ドエフスキー

「音場を頼んだぞ」

すると、ダークネス・ダークラは・・・

ダークネス・ダークラ

「逝ってらっしゃい。俺は未来のエロマンガや、AVを見ながら待つよ☆」

未来

「な、なんでそんな秘密を!?!」

すると、ドエフスキーはダークネス・ダークラの耳を引っ張りながら、

ドエフスキー

「おぬしも道連れだ・・・」

ダークネス・ダークラ

「やめろ！俺はポケモンのタケシじゃない！

こんなことしたら、マヤミと未来は駆け落ちを……。って、マヤミはリュウハクに囚われているんだった！！」

ダークネス・ダークラがドエフスキーと一緒に行ってしまったあと、未来は・・・

未来

「マヤミが囚われの身に！？

いま、助けにいくぞ！マヤミ！！」

未来は光の鎧を着て、成田空港へ向かった！
愛するマヤミを助けるために！

第3話・ダークラ、来日（後書き）

音場未来の裁木マヤミ救出劇は、第9天魔王で書く予定だが・・・。
アーサーといい、未来といい、光の男が闇の女の尻に敷かれるとは・・・。

第4話・文鳥との激闘！（前書き）

実際は文鳥と激闘せずに、お馬さんと戦う。ただし、ここで死んだ場合は生き返らない。と、というか幻魔と妖魔はパラレル。

第4話・文鳥との激闘！

ダークネス・ダークラは、ドエフスキーといっしょにあさひが丘まで電車へやって来た。すると、ダークネス・ダークラはいきなり、

ダークネス・ダークラ

「腹減った。ちよっくら食い物買ってくる」

ドエフスキー

「何いつてるんだ！？買う時間なんぞないぞ！！」

ダークネス・ダークラ

「安心しなされ。俺は瞬間移動できるから、先に行っても大丈夫だ」

ダークネス・ダークラとドエフスキーは別れた。

ダークネス・ダークラ

「マヤミが未来と結婚するとなると、あのゴツい奴と親戚になってしまうのか・・・」

ダークネス・ダークラは苦悩していた。もう、真夜中なので店はやっていなかった。しかたなく、そこら辺で眠ることにした。

ダークネス・ダークラ

「まったく・・・。明日はどうしようかな・・・？」

ダークネス・ダークラが眠りかけたその時、謎の毛玉が囓み付いてきた！

ダークネス・ダークラ

「痛い・・・が、その程度の攻撃で俺を食せると思ったか？」

ダークネス・ダークラはその毛玉を掴みあげた！

その毛玉はクリッターという、魔界の小動物だった！

ダークネス・ダークラ

「こいつは・・・クリッター！？なぜ魔界の生き物が・・・」

ダークネス・ダークラはその化け物をむしゃむしゃと食べた！

ダークネス・ダークラ

「まあ、腹の足しにはなったな・・・」

そういうとダークネス・ダークラは眠った。

次の日、小さい子供に起こされた！

タラオ

「ここで何をしてるんですか？」

ダークネス・ダークラ

「なっ・・・？俺は公園で眠ってしまったのか・・・」

タラオ

「ここは僕んちの庭でーすう」

すると、いがぐり頭の少年もやって来た。

カツオ

「変なおじさん、酔っ払って寝てたの？」

ダークネス・ダークラ

「変じゃないよ。俺は第9天魔王だぞ？」

ちなみに俺は宗教の問題で酒は・・・飲まんぞ？」

すると、カツオというクソガキはダークネス・ダークラに白い文鳥を渡した！

ダークネス・ダークラ

「なんだよ、コイツは！？」

カツオ

「この文鳥、タマに狙われるから、預かっていて！」

ダークネス・ダークラ

「なんで、こんな鳥を預からなきゃならないんだよ！？」

カツオ

「魔王ならたやすいでしょ？逆らうと、伝説の超勇者を呼ぶよ？」

ダークネス・ダークラ

「仕方ないな。預かっておいてやる！」

ダークネス・ダークラはその文鳥を預かることにした。
その頃、マスオはアナゴと一緒にいた。

アナゴ

「フグタクん、フリーザって奴をどう思う？」

マスオ

「強いんじゃないの？」

アナゴ

「セルのほうが強いよな？」

アナゴはそういうと、不気味な笑みを浮かべた！

その頃、ダークネス・ダークラはクレイモアのAVやエロマンガを探していた！

ダークネス・ダークラ

「テレサはないのか？」

しかし、イースレイとラキのガチホモ本はあった！

店主

「立ち読み、やめてくれませんか？」

ダークネス・ダークラ

「立ち読みする気失せた」

ダークネス・ダークラは文鳥を持て余していた。

ダークネス・ダークラ

「めんどくさいなあ」

その頃、磯野家ではクリッターがいなくなったと大騒ぎしていた！

カツオ

「ねえ、クリッターがいないよ！」

フネ

「おかしいね〜？オリハルコンの檻に入れたみたいだけど・・・？」

カツオ

「そのオリハルコンの檻が食い破られていたんだよ！」

フネ

「人さまの壁や車を食べてなければいいけどねえ・・・」

そのクリッターを食べたダークネス・ダークラは、公園のベンチで、文鳥の入ったカゴを近くにおいて、寝ていた。

三時間後・・・

ダークネス・ダークラ

「んん・・・。よく寝た〜。

・・・あ、あれ！？文鳥がいない！！

私の知らぬ業を、覚えているのか！！！？？」

ダークネス・ダークラはシロッコみたいな真似をした！

そして、文鳥を探し始めた！！

ダークネス・ダークラ

「どこだー、文鳥ー！！！！」

ダークネス・ダークラは必死に探した！しかし、見つからなかった！
しだいにダークネス・ダークラの心に、邪悪なものが芽生え始めた
！！

ダークネス・ダークラ

「おのれ、手乗り文庫め！！」

ダークネス・ダークラは次第にダークオーラを纏い始めた！そして、本来の目的を思い出した！！

ダークネス・ダークラ

「・・・おのれ、リヴォードンと呪われし血族め！！」

ダークネス・ダークラは凄まじいスピードで町を破壊しつくす！！
その時、謎のホームレス・イスレイが現れた！

イスレイ

「目障りだ。塵になれ」

すると、ダークネス・ダークラはイスレイに対する憎しみを覚えた！

ダークネス・ダークラ

「数多くの命を奪った貴様に俺は倒せぬよ・・・」

すると、イスレイは覚醒体になった！そして、弓を構えた！

イスレイ

「けしとべ」

イスレイは矢を放った！しかし、ダークネス・ダークラはすかさずかわした！

イスレイ

「ちっ」

ダークネス・ダークラ

「イスレイに対する憎しみ……。あの時に食べたクリッターから来ているみたいだ」

ダークネス・ダークラはそういうと、デス・アロウンドなる技を放った！

イスレイ

「ぐはっ……！」

体が、ボロボロに崩れていく……！？」

すると、ダークネス・ダークラはあざ笑いながら、

ダークネス・ダークラ

「それを喰らったやつは、体が朽ち果てながら死ぬ。

平気で命を奪ってきた貴様にはちょうどいい死だろ……。？（心の声…デスも習得していない、無慈悲な業だ！！）」

すると、イスレイは力を振り絞りながら喋りだした……。

イスレイ

「死にたくないなあ……。」

かりそめの家族の……。全てはいつか壊れる幻想だったとしても……。

少しでも長く……

ほんの少しでも長くあのままでいたかった……。」

イスレイはそう言いながら崩れていく……。

ダークラは哀れみを覚えた。しかし、心を鬼の頂点に立つ極鬼に変えた！

ダークネス・ダークラ

「くだらねえ戯言を言って、生きがってんじゃねえー！ー！！」

ダークネス・ダークラはイスレイをバラバラに切り裂いた！

そして、その破片を馬刺しにして喰った！

ダークネス・ダークラ

「イスレイ、俺に喰われるのが憎いか？屈辱か？ハハハハハ！！
俺の腹の中で飼ってやるわ！！！」

ダークネス・ダークラは冷酷に言い放った。しかし、ダークネス・
ダークラの行為は、ただ単生き物を殺すだけというものとは、一味
違っていた。

なぜなら、ダークネス・ダークラは食べるためにイスレイの命を
奪ったのだ……。たとえ心を極鬼にしても、イスレイの命のは
かなさに耐え切れず、その命を無駄にしないために食べたのだった。
。。。

ダークネス・ダークラ

「イスレイ、お前から幸せを奪ったのは俺じゃない。
貴様をそんな身体にしたやつだ……」

ダークネス・ダークラはイスレイを食べ終わると、文鳥を探して
見つけた。

ダークネス・ダークラ

「さあ、カゴに戻れ」

ダークネス・ダークラは文鳥をカゴに戻すと、さっさと磯野家に置
いていくと、ダークネス・ダークラは燃えだした！

ダークネス・ダークラ

「では、呪われし一族を食べに行くかぁ！！！！」

その頃、イスレイを倒すとか言っていたドエフスキーは、パチスロをやっていた！

ドエフスキー

「やはり、博打はやめられんなぁ！」

第4話・文鳥との激闘！（後書き）

一族の滅亡率は78%に！ちなみに、クリッター3はレオナルド・デйкаプリオのデビュー作でもあり、黒歴史でもあるぞ！

第5話・ダークブリュレ（前書き）

アナゴと魔王が激闘！？アナゴのすさまじいパワーに、ダークネス・
ダークラはさらにパワーアップ。そして、新たな闇の技を・・・！
？

第5話・ダークブリュレ

ダークネス・ダークラはドエフスキーそっちのけでぶらぶらしていた。

ダークネス・ダークラ

「つまらないな……。一族を倒す前にウォーミングアップしたいが……」

どこかに強いやつはいないのか？」

すると、マスオとアナゴがやってきた！

ダークネス・ダークラ

「ふへへ……。いっちょあいつらを脅してみるか……」

ダークネス・ダークラは冗談まじりでアナゴに殴りかかった！
しかし、アナゴはそれを避けた！

アナゴ

「そんなものが当たるか……」

ダークネス・ダークラ

「んだと、貴様！！」

ダークネス・ダークラはダークビームを放った！しかし、アナゴは難無く避けた！

アナゴ

「くらえい！」

アナゴはダークネス・ダークラに特殊な形をした刃物を投げつけた！

ダークネス・ダークラ

「たいしたことはないな」

ダークネス・ダークラは刃物を刺されまくったが、すぐに引き抜いて、アナゴに投げつけた！しかし、アナゴはそれも難無く避けた！そしてアナゴは手からビームを出した！

アナゴ

「いなくなれ！！」

ダークネス・ダークラ

「ビームだと！？」

さらにアナゴは手からビームサーベルを出した！そして切り掛かってきた！

アナゴ

「くらえっ！」

ダークネス・ダークラ

「貴様・・・何者だ！？」

すると、アナゴは攻撃をやめた！

アナゴ

「貴様は第9天魔王のダークラだな？」

ダークネス・ダークラ

「今はダークネス・ダークラだがな。で、何が言いたい？」

アナゴ

「貴方ならバンパイア一族を知っているだろう・・・」

ダークネス・ダークラ

「それがどうしたってんだ。

まさか、ピンク髪の女バンパイアを探しているんじゃない？」

アナゴ

「ほう・・・。そんなのもいたのか。あとで抹殺せねばな」

ダークネス・ダークラ

「さっきから言ってるが、お前・・・何が言いたい!？」

アナゴ

「魔王もバンパイア一族もろとも抹殺してやろうと思っているんだ。あの・・・伝説の超バンパイアのように」

ダークネス・ダークラ

「まさかそいつは・・・アーカードのことかぁー!!!」

ダークネス・ダークラは突如狂暴になった!!!

なんと、ダークネス・ダークラからジャークラに覚醒神化した!

ジャークラ

「許せん・・・。このくちびる野郎!」

アナゴ

「な、なんだと!?!」

アナゴがのけ反っているのを見たマスオは逃げ出した!

マスオ

「ひゃあああー!?!」

アナゴ

「フグタくん、どこ行くの?」

アナゴはびっくりした。

しかし、アナゴはジャークラに立ち向かった!

アナゴ

「くられ、全方向ビーム!?!」

アナゴはビームを放った!ビームがジャークラを襲う!しかし、ジャークラは謎のバリアを張った!

バリアによって、ビームは跳ね返り、町を破壊しつくした!

ドガドガバガアー!ボカアーン!?!

シャモ星人

「あゝあゝ!?!」

ダフ

「ぐぎゃああ!?!体に穴があああ!?!」

ビームの雨がやみ、ジャークラは、

ジャークラ

「驚いたか？さっきのバリアはダークオゾンって言って、ビーム系の技は全て跳ね返すか、吸収して無効にするのさ」

アナゴ

「こうなったら、この地球もろとも吹き飛ばしてやる！！」

アナゴは手の中にエネルギーを集中させた！

アナゴ

「死ねやー！！！」

アナゴは巨大なエネルギー弾を放った！

ジャークラはそれをダークオゾンで防いだ！しかし、ダークオゾンでは防げそうにない。それほどアナゴのエネルギー弾は強烈だった！！

ジャークラ

「くっ、なんてパワーだ・・・」

アナゴ

「どうだ！？苦しいか？死にたくなければ、俺にバンパイア一族を滅ぼさせる権利をよこせ！！」

ジャークラ

「それは無理な相談だな」

ジャークラはダークオゾンの壁をさらに厚くした！
そして、ジャークラは何かを言い出した・・・

ジャークラ

「アーカード、モカ、バットン、ドラキュラス……。お前らの力を貸してくれ!!」

すると、ジャークラは手からすさまじい闇の波動を放った!

闇の波動がアナゴのエネルギー弾を押す!

アナゴ

「愚かな……。だがその程度のパワーなら……」

アナゴが本気でケリをつけようとしたとき……

マスオ

「ノーズパーンチ!!」

アナゴは鼻のパンチで殴られた!!

アナゴ

「フグタクん、ひどいじゃないか……」

アナゴが油断したその時! ジャークラは闇の波動をさらに強力にした!!

ジャークラ

「くらえっ!! ダークブリュレー!!!!」

ジャークラのダークブリュレがアナゴのエネルギー弾を押しつけ、アナゴを吹き飛ばした!!!!

アナゴ

「だああああ!!」

アナゴは吹き飛んだ！
そして、地面に落ちた。

アナゴ

「チクシヨーーーー!!!」

その時、アナゴの奥さんがやってきた！

アナゴの妻

「あなた!! なに人様に迷惑かけてるの!？」

アナゴ

「あ・・・そ、それは・・・」

アナゴは奥さんの説教を受けはじめた！
それを見ていた野次馬の中に福島正則がいた！

正則

「怒られたーーーー！」

ジャークラは正則に近づいた！そして、匂いを嗅いだ！

ジャークラ

「あの一族の匂いがする・・・。
おい、リヴォードン知ってるなら、案内しろよ・・・。」

正則はジャークラに脅されて、リヴォードンとその一族の居場所を案内することになってしまった・・・。

第5話・ダークブリュレ（後書き）

ダークブリュレ・・・日本語に訳すと、焦げた闇。普通の闇と何か違いがあるのだろうか・・・？あと、一族の滅亡率が95%以上に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6296h/>

呪われし一族

2010年10月9日23時03分発行